旧玉名干拓施設（明豊・大豊潮受堤防）草刈り清掃活動

令和 8　年 10 月 31　日（土）　午前 7 時 00 分～8 時 30 分に熊本県玉名市にある旧玉名干拓施設（明豊・大豊潮受堤防）において、横島町文化財保存顕彰会が主催する草刈り清掃活動に 302 名（うち NPO 会員 43 名、関係会社職員 210 名、その他 49 名）が参加しました。

旧玉名干拓施設は、明治 20 年代以降に築かれ、大正期および昭和初期に発生した潮害後に、熊本県を中心として復旧・改造された海面干拓施設です。施設は末広開、明丑開、明豊開および大豊開の 4 カ所の潮受堤防がほぼ連続的に築かれており、総延長は 5.2km に及び、国の重要文化財にも指定されています。

本年度は、同施設の東側にある明豊開潮受堤防・大豊開潮受堤防（2.4km）を対象に、除草作業と空き缶等のゴミ拾いを行いました。

当日は、7 時 00 分に受付を開始し、7 時 30 分を目途に作業を開始しました。天候にも恵まれ、また多くの皆様に参加していただいたことにより、作業終了予定時間前に終えることができました。作業内容は草刈りから集積作業までとし、後日、草が枯れてから主催者が搬出を行う予定です。なお、閉会式では横島町文化財保存顕彰会の事務局からの御礼に続き、元玉名横島海岸保全事業所長の原田稔氏より、平成 21 年から NPO 美しい田園 21 が初参加した経緯等についての説明が行われ、無事閉会となりました。



草刈り作業前



草刈り作業後



草刈り作業中



参加者の集合写真

熊本日日新聞 2026年(令和8年)11月8日 日曜日 19面(県内総合)

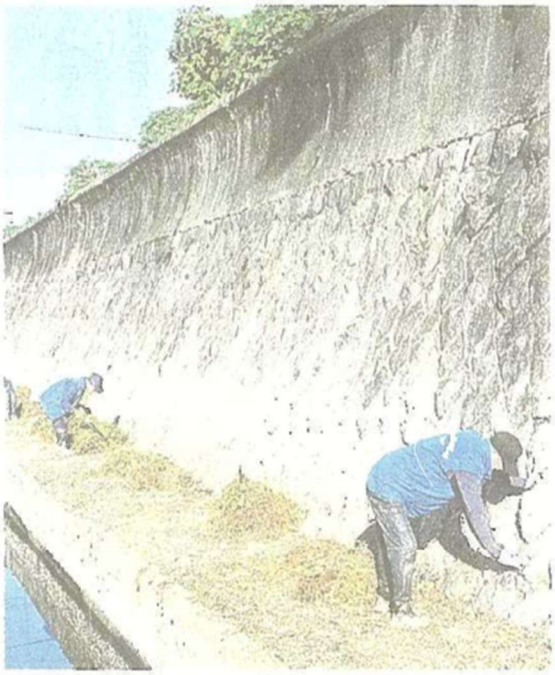
「海の万里の長城」草刈りに300人が汗

旧玉名干拓施設

「海の万里の長城」との呼び名のある玉名市の「旧玉名干拓施設」の草刈り作業が10月31日あり、ボランティア約300人が汗を流した。同施設は国の重要文化財で、菊池川流域日本遺産の構成文化財の一つ。

地域の宝を守ろうと、横島町文化財保存顕彰会（沼垣堅基会長）が呼びかけて毎年実施。今年は、施設を構成する四つの潮受け堤防（総延長約5・2キロ）のうち、半分の明覧、大浦の両潮受け堤防で作業した。

参加者は堤防の石垣に生えた雑草を刈り取ったり、空き缶やペットボトルなどのゴミを回収したりした。高所作業車を使った樹木の伐採もあった。沼垣会長は「施設を築いた先人の苦労を忘れず、感謝の気持ちを後世に引き継ぐためにも、文化財を大切に保存していきたい」と話した。（遠山和泉）



旧玉名干拓施設の草刈り作業に汗を流す参加者＝10月31日、玉名市